

再発行にあたって

前号(平成25年2月7日)『朝日に映えてそびえ立つ札滑岳の雄々しさよ～その8』の最後に「さて、新たに生じた疑問「上興部小学校の開校五十周年記念行事が本校より1年早く行われていた」ことについて、いずれ明らかにしなければなりません。そのためには、**本校の開校がいつなのか?**を調べる必要があります。筆者の覚悟と、そして準備が整いしだい、近いうちに文章にいたします。しばらくの間、準備のために休刊といたします。」と記述してから1年と10ヶ月が過ぎました。この度、校長が思ったり考えたりしたことを、勝手に書いて、勝手に皆様にお届けする「校長室から」を再発行します。本校の開校がいつなのか?について記述する前に、**別のテーマに寄り道します**。ご一読くだされば幸甚です。



二宮金次郎の像について ～その1～

今年3月下旬、本校を卒業されたご高齢の方からお電話をいただきました。「先日、久しぶりに西興部村を訪ねてきた友人とともに校舎の前の二宮金次郎の像を拝見し、小学生時代のことを懐かしく思い出していた。入学式に是非校長から若い親御さんに金次郎について講話して欲しい」という内容でした。すでに式辞の原稿もできあがっており、何よりも金次郎について講話できる知識を持ち合わせていなかったため、やんわりとお断りをしました。このことがずっと気になっていたため、金次郎について少しずつ調べてみました。

「**二宮尊徳**(にのみやたかのり1787年～1856年)一般的には「そんとく」と呼ばれることが多く、通称は「金次郎」と表記されることが多い。江戸時代後期の農政家・思想家。相模国足柄上郡(現在の神奈川県小田原市)で農民の長男として生まれた。少年時代に両親をなくし、苦勞しながら学んで、後に「報徳思想」を唱え、農村復興に力を尽くした。報徳思想は多くの門人や子孫に受け継がれていく。」⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾

二宮金次郎はいわゆる偉人なのです。では金次郎はどんなことをしたのでしょうか。そして、なぜ金次郎が像になって西興部小学校の校舎の前にあるのでしょうか。次号から、少し詳しくお伝えしてまいります。(校長 池原 英二)

(1) 寺島文夫(1965)『二宮尊徳～その生涯と思想』文理書院

(2) 守田志郎(1989)『二宮尊徳』(朝日選書382)朝日新聞社

(3) Wikipediaなどのウェブページからの引用 **今後参考文献等については割愛します。**

※ 校長室から1～8号は本校のホームページでご覧いただけます。